

雨の日

——ちんがく會——

ゆふべから降りつゞいてゐる雨の土曜日のこ
と、林の組で、小さい組のお子さん方をお客様に
音楽會をなさるといふこととした。

大きい組も入れて下さいな、とその組の先生に
お願いして、みんなが、幼稚園のお子さん全部に
折から來合せておいてのお母さん方も十人ばかり
みんながはいりましたので會場は大入りでござい
ます。入口で切符（子どものつくつた）と、胸に
つけるバラの花（紙でつくつた）とをいたゞいて、
いそ／＼とそれ／＼の椅子に腰かけました。

實習科の先生の御挨拶でいよく／＼始まりました。

お茶の水幼稚園林の組

プログラム

一、樂隊

ピアノ あき子

太鼓 五郎

小太鼓 千代子

ドラ 守雄

かね ひろ子

二、お話

文夫

三、水あそび

次郎

四、金太郎

五郎

五、かなりやのうた

女の方

六、お池の緋鯉

千代子、ひろ子

七、ほたるこいこい

守雄、祐五郎

八、靴がなる

ひろし、おさむ

としたか

九、遊戯

笹の舟

女の方

しやぼん玉

コケツコ

一、がくたい

きーてき一聲……。あきさんのピアノについて小だいのこもなる、かねもなる。けれども肝心の五郎さんの大太鼓がひいて来ません。氣をさかせてあきさんが又始つからきーてき一聲……、とひきなほす、日頃の英雄も急にさまりがわるくなつたらしく、うつどころか、胸に大きな太鼓をもてあまして下をむいてもち／＼して居るので、守雄さんが代つて大太鼓、五郎さんはドラといふことになつて樂隊は元氣よく終りました。

二、おはなし

文夫さんは眞面目な顔で正面に出て丁寧におぢ

ぎをしました。みんなもおぢをしました。さあ、

いつものお得意の合戦の話でも始るかと待つて居ると、もう一つ丁寧におぢぎをしました。すると急にピアノの側により添つたかと思ふと「忘れつちやつた」……。あんまり澤山の顔が文夫さん一人を見つめて居るので何をするのかわからなくなつてしまつたのでせう。それでは又今度といふことになつて、

三、水あそび

やつぱりおぢぎは上手に。ぐるつとみんなを見まはすつもりなのでせう。がさまりがわるいのでぐるつと白めがちに一まはり見まはしておいてから水をたくさんくんで来て……シュッ／＼の早いこと、早いこと。

四、金太郎

五郎さん、今度は無事に。

五、かなりやのうた 女の方

かりと終りまでうたつたのには感心しました。

九、遊戯

いづれもみごとに出来ました。

.....

みなさん、よくおとなしくきいて居て下さつて
 ありがたうございます、といふ御挨拶で林の組の
 は終りました。

つゞいてお客側の 小さい組のかはい、唱歌、

大きい組の元氣な合唱でこの音楽會は終りました

梅雨のひと日のよいもよほしに、みんながにこ
 くしながらよろこんでそれぐのち室にかへり
 ました。(六月廿五日 よしこ)



これはうたひてはまことに上手に。弾きての
 實習科の先生が、今日始めてお子さんの歌にあは
 せてピアノを弾くといふ、さういふ幼稚園の先生
 にとつては誠に意味の深い日でございます。うた
 を忘れたかなりやさんに同情のあまりか、折々ピ
 アノの音のとだえるのも、この親しい、小さい、
 音楽會にはふさはしい事でした。

六、お池の緋鯉

これはお上手に。

七、ほたるこいこい

八、靴がなる

みんなかはい、小鳥になつて、が、うさぎ、に
 なつてしまひました。それと氣のついたひろしさ
 んがあはてもしないで、大層ゆつくり兩手を上の
 方にもつて行つたと思つたら頭をかかへたので皆
 つい笑つてしまひました。それでもつゞいてしつ